

「協働」が新しいまちづくりのカチをつくりだす！！

令和元年度 掛川市市民活動推進事業 報告書

令和2年6月5日

掛川市生涯学習協働推進課

目 次

令和元年度 掛川市市民活動推進事業 採択団体一覧	1
パートナーシップ事業 活動写真	2
特定非営利活動法人 COMPAS	3 ~ 4
「みんなで子育て『カラフル・ブリッジフェアIN掛川』」 (協働相手：掛川市社会福祉協議会、NPO ママバトン)	
特定非営利活動法人掛川シニア交流研究会	5 ~ 8
「まちづくり防災キャンプ」 (協働相手：倉真地区まちづくり協議会)	
行政課題解決事業 活動写真	9
中村砦城山保全会	10 ~ 11
「中村砦の避難道整備による地域の安全、安心づくり事業」 (協働相手：中地区高塚区、掛川市社会教育課)	
協働遠州	12 ~ 14
「掛川市災害我がこと意識向上プロジェクト」 (協働相手：掛川市危機管理課)	

令和元年度 掛川市市民活動推進事業 採択団体一覧

	団体名	金額(円)	補助種別	事業種別	協働相手	タイトル
1	特定非営利活動法人 COMPAS	218,000	補助 (1/2)	パートナー シップ	掛川市社会福祉協 議会 NPOママバトン	みんなで子育て「カラフル・ブリッジフェアIN掛川」
2	特定非営利活動法人掛川シニア交流研究会	150,000	補助 (1/2)	パートナー シップ	倉真地区まちづくり協議会	まちづくり防災キャンプ
3	中村砦城山保全会	500,000	補助 (10/10)	行政課題解決	中地区高塚区 掛川市社会教育課	中村砦の避難道整備による地域の安全、安心づくり事業
4	協働遠州	500,000	補助 (10/10)	行政課題解決	掛川市危機管理課	掛川市災害我がこと意識向上プロジェクト
	4団体	1,368,000				

パートナーシップ事業

特定非営利活動法人 COMPAS




特定非営利活動法人 掛川市シニア交流研究会



様式第 14 号

事業実績書

名 称	特定非営利活動法人 COMPAS
事業名	みんなで子育て「カラフル・ブリッジフェアIN掛川」
事業内容 (実施内容とスケジュールを具体的に記載)	<p>月1回 子育て相談会(色彩心理を活用、掛川児童館)</p> <p>6月～8月 参加団体募集</p> <p>7月25日 選考会</p> <p>8月8日 事前説明会</p> <p>9月16日 カラフル・ブリッジフェア&シンポジウム</p> <p>9月26日 「掛川の子育てネットワークづくり」サミット</p> <p>10月～2月 小冊子作成</p> <p>来場者数 約300人</p> <p>安心をテーマにした子育て応援フェアと子育てについて 基調講演とパネラー5名と参加者によるシンポジウム</p>
事業成果 (事業計画に記載した課題の解決・改善成果を確認方法の観点から記載)	<p>フェアでは、子育て応援している企業、団体が来場者に活動紹介や体験会を実施。子ども達の発表(ピアノ演奏会)など交流ができました。シンポジウムでは、子育ての基盤となる愛着形成について基調講演を通して学びを深め、その後、パネラーと参加者による積極的な意見交換ができたことは大変効果があったと感じました。</p> <p>アンケート回収は69枚、目標200枚には届きませんでしたでしたが、満足度は目標70%達成することができました。</p> <p>今回の活動報告と子育て応援コラムなど子育て世代に有益な小冊子作成ができました。</p>
事業期間	令和元年 6月22日 ~ 令和2年 3月5日
協働の成果 (事業計画に記載した協働相手の役割の観点から記載) (パートナーシップ事業・行政課題解決事業のみ)	<p>子育て相談で、ワンストップサービスが月1回実施にあたり、場の提供していただけた事。さらに相談の情報共有ができ、子育て応援がより充実できた事。</p> <p>広報PRの幅が大きく広げられた事。</p> <p>今回の事業に賛同していただけたような団体などの紹介。</p> <p>フェア内容などの提案。</p> <p>当日運営協力など大きな力になっていただきました。</p>
今後の展開 (短期・中期のビジョン、「協働」を見据えた観点から記載)	<p>子育て応援のHP、小冊子、子育てネットワークの充実と整備。</p> <p>活動を賛同していただける行政、企業、団体、個人様のご協力を募り、持続可能なシステムを構築していきたいです。</p>

様式第7号

収支決算書

団体名称: 特定非営利活動法人 COMPAS

(収入)

区分	決算額(円)	説明
補助金	218,000	
参加費	200,000	企業 8社 × 25000円
協賛金	2,000	託児代500円 × 4人
自己資金	17,686	
合計	437,686	

(支出)

区分	決算額(円)	説明
報償費	60,000	講師30000円、パネラー10000円 × 3人
	19,030	託児サポーター・ボランティア代、サミット講師他菓子折
旅費	10,000	5000円 × 2人 講師、パネラー
文具消耗品費	8,880	看板、ラミネート、会場設営用品、
印刷製本費	63,743	チラシ7500枚カラー印刷費、イベント・シンポジウム資料
	192,800	小冊子16Pカラー5000部 印刷費
食糧費	5,793	お茶菓子、飲み物
通信運搬費	4,640	切手代、(チラシ、小冊子郵送)
使用料及び貸借料	27,800	掛川生涯学習センター、ステージ設営
手数料	30,000	交通整理係(駐車場)
保険料	15,000	イベント保険
合計	437,686	
(うち対象外経費)		

様式第 14 号

事業実績書

名 称	特定非営利活動法人掛川シニア交流研究会
事業名	まちづくり防災キャンプ
事業内容 (実施内容とスケジュールを具体的に記載)	別添報告参照
事業成果 (事業計画に記載した課題の解決・改善成果を確認方法の観点から記載)	<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実践的な訓練を通じて防災・減災に通じる規則や実情の確認、問題点の抽出・解決に資することができた。 2 自主防災会の組織機能や備品資機材等の数量が適切かどうかについて、訓練を通して確認し、今後の方向性について、資を得ることができた。 3 訓練を企画することにより、各種の知見に接することができた。 <p>反省</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子供の行事と重なり、親子の参加者が少なかったのが残念であった。
事業期間	令和元年6月14日 ~ 令和元年12月18日
協働の成果 (事業計画に記載した協働相手の役割の観点から記載) (パートナーシップ事業・行政課題解決事業のみ)	<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実践的な訓練を通じて、倉真地区の防災組織、備品等の検証と共に、防災訓練の課題を確認できた。 2 協働で企画運営し、協力・補い合うことにより、相互の理解と実効性を高めることが出来た。 3 初めての経験(宿泊を伴う避難所運営訓練)であり、運営ノウハウの向上と地域の意識改革の一助となった。
今後の展開 (短期・中期のビジョン、「協働」を見据えた観点から記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 今回は、広域避難所運営本部のみを対象としたキャンプ(訓練)だったが、次回は、地区避難所を含め、被害対応、避難所運営等の総合訓練の実施し、総合的な検証が必要と考える。 2、広域避難所は、大家族的要素があり、女性、子供の参加が不可欠で、脇役から主役へと働きかける。 3 将来的には、掛川市全体で防災キャンプが実施され、各種団体が有機的に結合できる様働きかけていく。

1. 実施計画概要と参加者表

時程と実施内容

事業の内容		
日時	プログラム	プログラム詳細
8月24日(土) 13:00~	1 発災、本部設営	自主防災会による本部設営と避難所開設準備 班分け、アクションカードによる作業確認、会場設営準備
15:00~	2 避難所開設	施設の安全度判定 運営本部の立上げ 避難者受入れ
	3 開講式 < 休憩 >	避難所訓練開講式、進め方説明
	4 実習	
	A 居住空間づくり	ダンボールによる間仕切り設営
	B 簡易トイレ組立	簡易トイレの作成とごみ処理
	C 電源切替え操作	停電時の発電機操作システム
18:00~	5 夕食の準備炊出し (日没18:24)	断水、停電状況での夕食準備 (いろいろな食事法の指導) 浄水器の使い方実習
19:30~	6 夕食	停電下での夕食体験 (灯の確保のいろいろ)
20:00~	7 応急訓練等 (点灯下)	トリアージ、応急処置等 避難所ゲーム
22:00	8 消灯 就寝	
8月25日(日) 06:00	9 起床	ラジオ体操
07:15~	10 朝食	朝食準備と朝食(非常用糧食)
08:00~	11 グループワーク	避難所運営の在り方について アンケート調査
10:30	12 解散	後片付け終了後解散

1. 実施計画概要と参加者表

まちづくり防災キャンプ（倉真地区）参加者内訳

所属	区	男性	女性	児童	備考 今後の対策
自主防 関係	1区	3	1	1	防災委員の参加要 + 2
	2区	7	1		
	3区	5	2		
	4区	4			
	5区	3		2	防災委員の参加要 + 2
	6区	2			防災委員の参加要 + 2
	7区	3		1	防災委員の参加要 + 2
	計	27名	4名	4名	35名
協働	シニア研	6	4		
	協議会	2			協議会役員の参加要 + 3
	計	8名	4名		12名
その他	地区	2			組長の参加要 + 4、
	学校	2			
	市職員	3			危機管理課・生涯学習協働推進課
	教育委会		1		
	学園		1		
	計	7名	2名		9名
合計		42名	10名	4名	56名

* 倉真地区以外からの視察者・来賓・講師計7名はこの集計に含んでいません。

備考

学校行事と重なり、児童の参加が4名と少なかった。（目標10名）
 次年度の年間行事予定表に開催日を位置づけておく。
 地区からの女性の参加が4名と少なかった。（目標10名）
 地区の女性防災委員を各区1名程度選出する（区長会で協議要）
 次年度は、障がい者、避難弱者の方の参加を増やす。
 ペットの収容を加える。

様式第7号

収支決算書

団体名称:特定非営利活動法人掛川シニア交流研究会

(収入)

区分	決算額(円)	説明
市民活動推進事業費補助金	150,000	
協力金	151,840	倉真地区まちづくり協議会より
自主財源	8,895	NPO法人掛川シニア交流研究会
合計	310,735	

(支出)

区分	決算額(円)	説明
食糧費	83,812	缶詰(飯、汁、おかず等)、飲料水、ペットボトル
文具消耗品費	136,191	パーティション(段ボール)、燃料、防災グッズ等
印刷製本費	32,302	計画周知、チラシ、アンケート、成果報告等
使用料及び貸借料	52,340	毛布レンタル等
保険料	5,588	キャンプ(傷害保険)
通信運搬費	502	書留
合計	310,735	
(うち対象外経費)	2,190	

中村砦城山保全会



協働遠州



事業報告書

団体名	中村砦城山保全会
事業名	中村砦の避難道整備による地域の安全、安心づくり事業
事業内容 (実施内容とスケジュールを具体的に記載)	<p>① 竹林を伐採しつつ荒山の整備（29年/5月～継続中）</p> <p>② 不要な樹木の撤去 南側（29/11～継続中）</p> <p>③ 頂上の安全地帯確保、避難地確認</p> <p>④ 芝生の植栽（1/7）</p> <p>⑤ 中小学校生徒への現地見学、説明会（1/11）</p> <p>⑥ 急坂登り階段設置（2/1～継続中）</p> <p>※①～⑤については今期分完了 ⑥については継続中 ①～⑥は複数年かけて計画しているので来年度も継続して実施する予定である。</p>
事業成果 (事業計画に記載した課題の解決・改善成果を確認方法の観点から記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内にある荒れ放題の小高い丘（中村砦跡）がきれいに整備され明るく安全になり、区民が気軽に入山が可能になった。 ・災害時の緊急避難場所としてのスペースが確保できた。 ・芝生の広場ができたことにより憩いの場、公園らしくなった。 ・地域の歴史を学ぶ場所として小学生の現地研修も実施でき歴史遺産として興味と誇りを感じる地域のシンボルとなった。
事業期間	令和1年6月1日 ～ 令和2年2月28日
協働の成果 (事業計画に記載した協働相手の役割の観点から記載) (※パートナーシップ事業・行政課題解決事業のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・協同相手団体である高塚区民、高栄会、五月会、中地区まちづくり協議会のメンバーは作業の都度参加をし、協働のパートナーとして十分な理解と作業協力の呼びかけ等尽力してくれた。 ・城山頂上まで歩道ができ、2年元旦には区民40人程が御来光を拝みに登頂し万歳三唱が盛大に行われ区民と一体となって行っている事業であることの認識が深まっている。事業が進み成果が目に見えてくることにより協力者の満足度、意識の高揚が感じられる。 ・行政のバックアップにより整備の方向、作業、研修等の課題がスムーズに進捗できた。
今後の展開 (短期・中期のビジョン、「協働」を見据えた観点から記載)	<p>短期的…竹林の伐採、急坂階段整備がまだ残っており、本年も継続して実施していく。</p> <p>中期的…竹林以外の大木の伐採 頂上付近の急坂階段整備、危険個所の看板、防護柵 簡易トイレ設置検討、芝生広場の整備 桜等の植林を並行して実施していく。</p> <p>ソフト面…地域のシンボル場として、花見会、お茶会、避難訓練、花壇づくり、歴史勉強会等幅広く利用していく。</p>

様式第7号

収 支 決 算 書

団体名称: 中村砦城山保全会

(収入)

区分	決算額(円)	説明
補助金	500,000	掛川市より
区民協賛金	2	
合計	500,002	

(支出)

区分	決算額(円)	説明
使用料・賃借料	296,668	重機回送21,600 重機賃借料115,020 重機賃借料5,000 破砕機賃借料98,992 破砕機賃借料56,056
旅費		
文具消耗品費	200,684	鎖・錠・6,398 噴霧器4,560 燃料2,640 タオル3,190 インク 998 丸太・杭等130,400 テップソー6,900 防腐剤ハケ 6,178 燃料16,290 チェーンソー16,280
食糧費	2,100	お茶2,100
手数料	550	振込手数料550
合計	500,002	
(うち対象外経費)		

事業報告書

団 体 名	協働遠州
事 業 名	掛川市災害我がこと意識向上プロジェクト
事 業 内 容 (実施内容とスケジュールを具体的に記載)	<p>被災地での学び</p> <p>8月17日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮古市役所にて復興状況とまちづくりについて ・宮古工業高校にて津波模型作成と交流 ・大槌町木枕地区集会場にて、高台移転の経緯について学ぶ <p>8月18日(日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸前高田市一本松にて掛川物産展 ・売上金は陸前高田市に全額寄付 <p>8月19日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸前高田市、高田松原を守る会の皆さんと除草作業 ・大船渡市東海新報社にて、記者から見た震災講話 ・新聞記事から資料提供してもらう ・宮城県気仙沼港視察 <p>掛川での啓発活動</p> <p>11月2日(土)掛川工業高校葛川祭にてパネル展示</p> <p>11月3日(日)大須賀交流祭にてパネル展示</p> <p>11月8日(金)アンリ保育園にて松毬工作、つなみてんでんこ自作紙芝居披露</p> <p>11月6日(水)大浜中1年生防災講座(体育館)</p> <p>11月17日(日)大東市民フェスにてパネル展示</p> <p>11月25日(月)大浜中2年生防災講座(常葉大生)</p> <p>12月18日(水)葛ヶ丘保育園高田松原砂にて砂絵</p> <p>12月19日(木)横須賀小6年生防災講座(静大生)</p> <p>1月16日(木)三笠幼稚園砂絵</p> <p>1月18日(土)千浜地区津波避難訓練</p> <p>1月25日(土)市民活動発表(シオーネ)</p> <p>1月27日(月)2月10日(月)市役所3階パネル展示</p> <p>3月7日(土)遠野市小時田氏と消防署視察意見交換</p> <p>* 3月1日(日)~3月8日(日)大東図書館パネル展示及び3月8日(日)シンポジウムは新型コロナウイルス感染症対策により中止</p> <p>詳細は別紙</p>

<p>事業成果 (事業計画に記載した課題の解決・改善成果を確認方法の観点から記載)</p>	<p>被災地に向かったのは横須賀高校生3人、大学生11人と一般5人の19人だった。この活動も継続した活動となり、常葉大学の参加者は先輩からの引き継ぎで、毎年安定した参加率である。今年は静岡大学の教育学部生が参加し、震災を自分の目で見て、自分のことばで子供たちに伝えられるように被災地で自ら学んだ。被災地で学ぶことは、毎年少しずつ変化しており、今回は東海新報社の記者から見た東日本大震災をテーマにお話をいただき、新聞記事もいただいた。参加者が新聞記事を選び、自分なりに報告出来るように真剣に講話を聞いていた。</p> <p>掛川に帰ってきてからは、参加者が所属する団体や学校での報告会や市内各所でのパネル展示、横須賀小学校、大浜中学校での大学生による防災講座、千浜地区住民による津波避難訓練を行った。また、小さな子供たちにも震災を知ってもらい、家族でも共有していただけるように、2保育園と1幼稚園で東北と市内海岸沿いの松毬を使ったツリー作りや陸前高田市の海岸の砂を使った砂絵を行った。</p>
<p>事業期間</p>	<p>令和 元年 5月 15日 ~ 令和 2年 3月 15日</p>
<p>協働の成果 (事業計画に記載した協働相手の役割の観点から記載)</p> <p>(パートナーシップ事業・行政課題解決事業のみ)</p>	<p>掛川市の防災面での課題は、市民の防災意識が低いことや防災訓練のマンネリ化や参加者の固定化などがある。協働遠州は若者を被災地に連れて行き、実際に自分の目で見て、聞いたことを掛川市に持ち帰り、多くの場所でパネル展示や講話を行った。パネル展示や講話の設定などは掛川市危機管理課が中心に調整をしてくれた。本来なら3.11の追悼の集いにおいて、行政と市民がより防災について語り合う計画だったが、パネル展示もイベントも開催できなかった事はとても残念である。</p> <p>パネルやDVDを作成し、今後の防災研修会などにも積極的に参加していくことになっているので、危機管理課とは連携を密にしていきたい。</p>
<p>今後の展開 (短期・中期のビジョン、 「協働」を見据えた観点から記載)</p>	<p>協働遠州が今年新たに作成した資料は、東海新報社の震災当時の新聞記事である。なかなか手に入らない資料として、これまで集められた資料と共に今後の防災研修会などで展示や講話を進めていきたい。さらに、これまで参加した市民にも声を掛けて、それぞれが地元で防災・減災について中心的な存在になっていけるように、改めて協働遠州の組織を強化していきたい。</p>

様式第7号

収 支 決 算 書

団体名称:協働遠州

(収入)

区分	決算額(円)	説明
補助金	500,000	行政課題解決事業
参加費	190,000	10000×19人
自己資金	6,875	ふっこう支援掛川、WAKUWAKU西郷
合計	696,875	

(支出)

区分	決算額(円)	説明
報償費	25,778	運転手謝礼
旅費	125,200	高速料金(掛川～鳴瀬奥松島)宿泊費
文具消耗品費	230,189	パネルフレーム、インク、松ぼっくり材料
食糧費	143,212	食事、仮設住宅の方との意見交換会
使用料・貸借料	147,120	風呂、レンタカー
通信運搬費	4,016	郵便代
手数料	21,360	茶娘衣装クリーニング
合計	696,875	
(うち対象外経費)	162,319	



「茶のみやきんじろう」

©掛川市

この補助金に関するお問い合わせ、申し込み先は

〒436 - 8650

掛川市長谷一丁目1番地の1

掛川市役所協働環境部 生涯学習協働推進課 協働推進室 協働推進係

TEL : 0537 - 21 - 1129

FAX : 0537 - 21 - 1165

E-mail : kyodo@city.kakegawa.shizuoka.jp



掛川市まちづくり協働センター

検索

まちづくり情報を発信中!

市 HP

